

角館へのアクセス

- JR利用【新幹線】
 - 東京 (3時間)
 - 仙台 (1時間30分)
 - 函館 (4時間)
 - 盛岡 (47分)
 - 秋田 (43分)
 - 田沢湖 (14分)
 - 大曲 (11分)
- 秋田内陸線利用【急行もりよし】
 - 阿仁マタギ (40分)
 - 阿仁前田(湯吉) (1時間20分)
 - 鷹巣 (2時間)
- 車利用
 - 秋田自動車道 国道105号 (3時間10分)
 - 仙台 (3時間10分)
 - 盛岡 (1時間20分)
 - 秋田 (1時間10分)
- 飛行機利用
 - 東京 (60分)
 - 大阪 (80分)
 - 福岡 (105分)
 - 札幌 (50分)
- 夜行高速バス利用【江ノ電バス・羽後交通】
 - レイク&ポート号
 - 東北自動車道
 - 横浜 東京 (浜松町)

角館駅からの距離

横町橋 (桧木内川堤)	約1.2km	徒歩20分
伝承館 (武家屋敷通り)	1.5km	徒歩21分
西宮家 (田町武家屋敷)	700m	徒歩10分
天寧寺	800m	徒歩12分
郵便局	800m	徒歩12分
常光院	900m	徒歩12分
花葉館	10km	車で12分
抱返り溪谷入口 (神社)	8km	車で12分
たざわこ芸術村 (わらび座)	6km	車で10分
雲巖寺	8km	車で10分
八津 (かたくり群生地)	15km	車で18分
刺巻 (水芭蕉群生地)	18km	車で23分
田沢湖畔 (春山)	30km	車で35分

タクシー案内 市内観光(入館料別、消費税込)

1時間	6,800 円	2時間	13,600 円
3時間	20,400 円	4時間	27,200 円

※タクシー料金は平成29年4月現在のものです。
※施設の所要時間及びタクシー料金については待時間、道路状況等により変わりますので目安として参考にして下さい。

設置箇所は市サイト及び市内観光案内所で確認いただけます。

●ホテル ●ガソリンスタンド
●旅館 ●コンビニエンスストア
●民宿 ●一方通行 (7:00~19:00)
●温泉 ●トイレ
●銀行 ●駐車場 ●バス停

外町地区観光名所

新潮社記念文学館【有料】
角館町出身の新潮社創設者佐藤義亮氏ゆかりの文人や近代文学に関する資料、原稿を展示しています。

西宮家【無料】
明治後期から大正時代にかけて地主として繁栄し、その時代に建てられた、棟の蔵と母屋は、大正ロマンにあふれる古き良き時代を今に伝えています。

たてつ家【無料】
明治33年に建てられたもので、静かに佇む日本庭園や落ち着いた趣の座敷が商家の風情を現代に伝えていきます。また、外町史料館として暮前から先祖が使用した趣味や生活用品を展示公開しています。

安藤家【無料】
創業嘉永6年(1853年)。味噌醤油の醸造元と漬物の製造元、明治中頃に建てられたレンガ造りの蔵座敷は火災に備えて設計されたもので、一般公開されにくいです。

天寧寺
寛永元年(1624年)創建。会津より移封の菅名氏の菩提寺。山門は角館城の遺構で、裏山には平福百穂の筆塚があり、町を見おろせます。

角館総鎮守神社

角館天照大御神を祀る町の鎮守。小田野直武の絵馬が奉納され、菅江真澄終焉の地碑が建立されています。

雲巖寺
宝徳2年(1450年)の開創。山門(県有形文化財)の仁王像は、トリノ節の作詞者高橋市蔵の作です。座禅堂は秋田県最古のもので、白石焼の仏像千体を祀った千体仏堂もあります。(市文化財)

常光院
寛正元年(1460年)開山。佐竹北家の菩提寺。幕末の戊辰戦争で、大村藩と九州からの援軍藩士の戦没者墓地があります。

角館総鎮守神社
角館天照大御神を祀る町の鎮守。小田野直武の絵馬が奉納され、菅江真澄終焉の地碑が建立されています。

常光院
寛正元年(1460年)開山。佐竹北家の菩提寺。幕末の戊辰戦争で、大村藩と九州からの援軍藩士の戦没者墓地があります。

角館祭りのやま行事

勝楽山成就院薬師堂・角館総鎮守神社の祭典にあわせ、9月7日、9日に「国指定重要無形民俗文化財 角館祭りのやま行事」が行われます。

余興として各丁内から18台の曳山(ヤマ)が繰り出し、薬師堂・神明社への参拜、佐竹北家当主の上覧、町内を賑やかすために曳き回します。曳山には角館を中心とした近郊の北浦地域の人による飾山囃子、秋田おぼこの踊り子が乗り、道中囃子を絶えずとなく奏で、奉納や上覧、張番(各丁内の番所、家々へ手踊り、披露しながら回り歩き、伝統芸能を堪能できる祭りです。

また、曳山どうしが鉢合わせした場合は通行の優先権について交渉しますが、決まらなかった場合には、曳山を一本ずつあって実力で優先権を得る「本番やまぶつけ」が行われ、角館のお祭りならではの「観光用やまぶつけ」は、事前に激突場所・時間が決まっているため観光客に人気です。

こうした独自の伝統文化が守られていることから2016年にユネスコ無形文化遺産に登録され、世界中から注目されています。

火振りかまくら

小正月の行事の一つで、神聖な火で田んぼの忌を払い五穀豊穡、無病息災を祈る行事です。炭俵に1mほどの縄をつけ、それに火をつけ振り回します。大きな火の輪が冬の夜のメルヘンの世界へと誘います。

案内標柱

A I Q

